

山形県技術士協会だより

2001 3つの紀元の新年を迎えて 土生会長

ハイライト:

待望の協会会報 - 創刊号発行
3つの紀元の新年を迎えて
技術士法改正によるCPDは
こうなる
APECエンジニアの審査登
録教えます
現場見学と手打ちそば
技術士大会 in 盛岡 大成功!

目次:

3紀元の新年を迎えて 巻頭 (CPD etc.)	2
APECエンジニア登録	3
現場見学会	4
技術士全国大会	5
H12年度事業活動一覧	6
技術士協会トピックス	7
技術士紹介	7

皆さん!新年おめでとうございます。
この「協会だより」がお手元に届く頃
は新年も大分ときが過ぎているので気
の抜けたビールのように大変恐縮です
が、今年に限って何回でもお祝いと言
う価値があると思って申し上げる事に
しました。と言うのは今年が1000年に
1度の希有の年でこれから3000年に向
かう所謂新千年紀と新世紀と新年の3
つの紀元が重なり、このような年に生
まれ合わせた輪廻に、今更ながらお互
いが感謝しなければならないと思いま
す。

新千年紀は兎も角として、新年と言
うと何かしら良い事があるのでは、と誰
もが思いがちですが、21世紀の初頭
に当たったの予想は心豊かなメルヘン
的世界が待っており、そしてそれはロ
マンに満ちた展開をとげるのではない
かと期待するのは人心の常であろうと
思います。世紀末には世界の人々のモ
ラルが向上し、国境などと言うものは
なくなっているかもしれません。

20世紀は戦乱に明け暮れた世紀と言
われますが、16世紀ころから大航海
が盛んに行われ、その結果ヨーロッパ
諸国のアジア、アフリカ、オセアニ

ア、南北アメリカへの進出で、安らか
に暮らしていた原住民の国家を圧倒的
な火力の差で自国の植民地にしてしま
いましたが、今度は19世紀から20
世紀にかけてこれに出遅れた国々と
「世界再分割」の争いが起こったり、
また独立して主権を取り戻そうとして
「占領国」との間に衝突したのもあり
ました。石原慎太郎東京都知事著の
「アメリカ信仰を捨てよ」とか「no
と言える日本」には欧米諸国のフィリ
ピン、インドネシア、インドシナ、等
への侵略と残虐振りがリアルに書かれ
てあります。

大東亜戦争(戦勝国流にいえば太平洋戦
争)も欧米の東亜侵略の現状から、アジ
ア人のアジアを作る事が狙いでしたが
、巧妙な罠に嵌まって先ず宣伝戦で
後手にまわり、あとは圧倒的な人的、
物的資源に多勢に無勢、加えて中立と
頼んだ国に裏切られ、結果は「東京裁
判」と言う、敗者に一言も弁解を許さ
ぬ奇妙なリンチに掛けられ正に「力
は正義なり」という諺をいやと言う程味
わされましたが、これも欧米白人種
のみが世界を支配し、有色人種を劣等
視する一連の流れが残っていたのだと
言われております。

私共日本人は速やかに東京裁判史観を世界中から払拭し、隣国等の歴史観発言に対しても
キチッと反論できるようにし、悪夢の20世紀を早く忘れたいものです。

20世紀の後半になって、今度は「民族の自治独立」から「同一宗教圏の形成、独立」と
言う形になって火を吹き始め今なお果てしない争いがくり返されております。かと思
うと、いまだに帝国主義時代の膨張主義を彷彿とさせるような覇権思想で押し通そうと
している国がある事は困ったことであります。

いまや、このような前世紀の遺物的思想とつき合うばかりか、もうひとつの巨大な魔物と
対決せざるを得なくなりました。それは20世紀後半から特に著しくなった環境破壊即ち
地球寿命問題が焼眉の急務となって来たことです。工業力、経済力がダントツの国が強大

な国力をバックに「地球気象変動枠組み
条約」の割り当てを拒んだりして国際エ
ゴ丸出しには困惑するばかりですが、い
ずれは新世紀の前半には文字通りの地球
延命機構(仮称)が発足して、前記の覇権
思想をも含めて、自国の行動に対する後
始末をきっちりつける事になりましょ
う。その意味では今世紀は「環境の世
紀」といえるかもしれません。

C.P.D. & A.P.E.C etc.

土生会長

さて、前世紀末からI.S.Oに加えてC.P.D.とかA.P.E.C. Engineer登録の話が忙しくなってきました。ご存じの方も沢山おいででしょうがそれについて私見を交え知り得た事について述べたいと思います。

- 注 C.P.D.:Continuing Professional Developmentの頭文字
- 継続専門事項知識開発 = 継続研修
- A.P.E.C.:Asia Pacific Economic Cooperation
- アジア太平洋経済協力会議
- E.M.F.:Engineers Mobility Forum
- 技術移動討論会 = 世界レベルでの技術者相互承認の議論の場

先ずC.P.Dですが技術士法の改正により、技術士が高級技術者としての地位を保つため、常に新しい知識を身につけなければなりません。

そのためオーソライズされた研修会、講習会等の受講、技術指導の実績が5年間で250時間、3年間で150時間、つまり年平均50時間(単位)以上が要求されます。自分の業務の都合で1年も2年も国内に不在と言うこともあるので3年間で150時間とか5年間で250時間と言う事にしたのです。

ここで、普通研修を受ける場合と講師として研修をする場合とでは当然重みが違います。これをC.P.D.W.F(weighting factor)と申します。たとえばある研修会の講師を年2回依頼され1回の講義が1日4時間としますとW.Fを5にとった場合には

$$4 \times 2 \times 5 = 40 \text{時間(単位)}$$

となりますが、日本技術士会を出した記入例にはW.Fは3のようです。

これは自分で3でも5でも思ったもので書き上げ申請してはどうでしょう。技術本部で訂正してくれると思います。

単位が仮に少なくなった時は次の1年で多く単位をとる事になるかと思えます。

いつからいつまでと言う事は誕生日を基準とします。たとえば12月10日生まれの方が2001年3月に申請する場合には過去2年間の実績は

1998年12月10日より1999年12月9日迄と、1999年12月10日から2000年12月9日迄が妥当と考えられます。

現在は技術士の19部門総べてのものでなく主として建設部門系統だけに試行されるように見受けられますが近い将来総べての部門に適用になると言う事です。

次にA.P.E.Cエンジニアですが、C.P.Dを取得する前にA.P.E.Cエンジニアの資格を取得してC.P.Dの申請書に書いて出すのも1つの方法です。これは日本の技術士が他のA.P.E.C諸国の技術士と同様、つまりA.P.E.C諸国の何処でも通用するよう登録するものです。いずれ、いつかは取得しなければならないものなのでなるべく早く手続きをとった方がよろしいかと思えます。

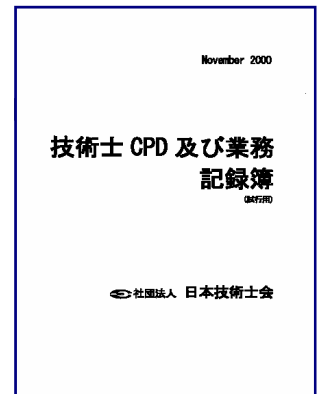
A.P.E.Cは英文が半分ですがそう難しくはありません。書式で経歴を示すため技術士取得前の経験まで書く場合があります。

年2回の審査がありますが今年の1四半期中にじっくり調べて6月か遅くとも12月までには、該当者全員がA.P.E.Cエンジニアに登録を済ますようにしたいものです。早く登録した人は後の人にアドバイスをお願い致します。

みなさん！山形県内の技術士はすべからずA.P.E.Cエンジニアの登録をするようにしようではありませんか！今年のこれからの行事は今までと違った心構えで行かなくてはなりません、どうかみなさん、健康には十分に留意しましょう。今年もよろしく願いいたします。

以上

オーソライズされた研修会、講習会の受講、技術指導の実績が5年間で250時間要求されます



社団法人 日本技術士会 へ出しているCPD記録簿(試行用)の表紙

No.	氏名	所属	職種	登録	備考
1	山形県	山形県	山形県	山形県	山形県
2	山形県	山形県	山形県	山形県	山形県
3	山形県	山形県	山形県	山形県	山形県
4	山形県	山形県	山形県	山形県	山形県
5	山形県	山形県	山形県	山形県	山形県
6	山形県	山形県	山形県	山形県	山形県
7	山形県	山形県	山形県	山形県	山形県
8	山形県	山形県	山形県	山形県	山形県
9	山形県	山形県	山形県	山形県	山形県
10	山形県	山形県	山形県	山形県	山形県

C P D記載欄

APECエンジニア審査・登録申請について

審査の申請は常時受け付けますが、審査は6月と12月の年2回を基本とします



あなたもAPECエンジニア

1995年11月、大阪で開催されたAPEC(アジア太平洋経済協力)首脳会議においてAPEC発展のため、参加エコノミー間での技術者資格に関する相互承認に基づく有資格技術者の流動化を促進することが決議されましたが、これを受けて、1999年1月、日本APECエンジニアモニタリング委員会が設置され調整が進められてきました。この程「APECエンジニア審査・登録申請」についての案内が公表されましたので、概要をお知らせします。

案内の要点は次の通りです。

1. APECエンジニアと登録分野

「APECエンジニア」は、技術者に広く国際的な活躍の機会を提供するAPEC発の技術者のグローバルスタンダードです。

APECエンジニアが登録する技術分野は、当面次の9分野です。

1. Civil Engineering
2. Structural Engineering
3. Geotechnical Engineering
4. Environmental Engineering
5. Mechanical Engineering
6. Electrical Engineering
7. Industrial Engineering
8. Mining Engineering
9. Chemical Engineering

日本では当面「Civil」と「Structural」の分野を登録申請の対象としています。

「Civil」分野の資格は技術士が、「Structural」の分野の資格は一級建築士が対象となります。

2. 審査申請について

審査・登録には、申請書類による申請が必要ですので、240円分の切手(1部請求の場合)を貼り返信先を明記したA4版(角形2号)の返信用封筒と下記の申請書類代を定額小為替証書で同封し郵送にて日本技術士会まで請求して下さい。

* 申請書類代(1部当たり)：日本技術士

会会員は700円、会員以外の方は1000円

* 2部以上まとめて請求される場合は、申請書類一式1部の重量は190gですので、合計重量を郵便料金表で確認し、切手を貼付して下さい。

申請時には審査手数料が必要となりますので、申請者は下記の手数料を郵便振替または銀行振込で前納して下さい。

* 新規審査手数料(消費税込み)：

10500円

* 2分野を同時に申請される場合は、15750円(消費税込)となります。

* 登録審査申請書の書き方は日本技術士会で手引き書を販売しています。1部750円 技術士会東北支部(事務局復建技術コンサルタント)でも販売しております。

3. 審査の手順等

審査の申請は常時受け付けますが、審査は6月と12月の年2回を基本とします。

4. 登録について

審査合格者は、合格通知受理後速やかに下記の登録手数料を日本技術士会へ納付して下さい。

納付によって、APECエンジニアとして登録されます。

* 新規登録手数料(消費税込)：

7350円

* 2分野を同時に登録される場合は、11000円(消費税込)となります。登録有効期間は、5年間です。

(社)日本技術士会

APECエンジニア審査委員会

〒105-0001東京都港区虎の門4-1-20

田中山ビル8

Tel : 03-3459-1331 FAX : 03-3459-1338

E-mail : appec@engineer.or.jp

審査・登録申請に関する詳しい情報は、技術士会のホームページでも照会しています。

Http://www.engineer.or.jp/



現場見学会

山形県技術士協会現場研修会報告

報告者 樽石良一（農業部門）

技術部会事業としての現場研修会は、数年来の懸案であった「長井市レインボープランコンポストセンター」が大場伸一氏（農業部門）の計らいで実現した。

研修日程は、山形県環境保全センター、山形県立農業試験場、長井市レインボープランコンポストセンターの他、昼食は長井市の有名な「手打ちそば」も計画表に盛り込まれた。

10月3日、生憎の雨天の中、土生会長以下11名の参加で夫々の車に分乗し山形県環境保全センターに向かった。

当センターは、県内の大気・水質に関する環境調査・研究及び環境情報の発行・教育支援相談等の業務が目的で、総務部、環境情報部、大気部、水質部、環境化学部から構成されている。

我々が案内されたのは大気部のテレメータシステム室で、大気汚染・酸性雨・騒音・振動・悪臭等についての業務状況を見学し、この中で三宅島の噴火による噴煙の影響が3日後に確認されたという説明も受けた。

山形県環境保全センターを後に、雨の中を村木沢の山形県立農業試験場へと向かった。

試験場の沿革・業務内容・組織等の説明を受けた後、白衣を纏った女性研究員が水稻に有害な「カメムシ」の分析現場状況視察、衛星データ・ネットワークシステムを利用した生産管理技術・農業気象情報システムの開発現場状況を視察し農業試験場を後にした。

各自が好みの「手打ちそば」を食べる頃には雨もあがり、レインボープランに到着すると風は強いものの良く晴上り、屋外の視察には好条件となった。

レインボープランは、長井市が農林水産省の補助を受け「地域資源リサイクル推進整備事業」で平成8年に着手したもので、家庭の生ごみを収集し蓄糞・籾殻と混合し高速堆肥化し、有機農産物の生産を拡大し農業担い手を育成することである。

本施設は、ホッパ・コンベア・発酵吸気ファン・脱臭装置・粉碎機・乾燥機・磁選機・スクリーン・袋詰装置からなりこれらはプラントメーカーが設計施工し、また建築物はRCを基礎とした鉄骨構造で、配置・構造とも実用性・経済性を重視した設計である。

レインボープランには、県内外から各階層の見学者が多く当日も大型バスで数団体が訪れ、市の案内担当者が説明にあっていた。

研修日程を終え山形に帰着したときにはまた雨が降り出し、懸案であった「レインボープランコンポストセンター」の現場研修時に天候に恵まれ幸運であった。

21世紀の課題である環境問題、食糧問題、循環型社会に対応したリサイクルと12年度の現場研修会は大変有意義なものと考えられる。

重職にある当協会会員の皆様は大変ご多忙と思いますが、今後現場研修会には多数参加されますことを期待します。

以上

各自が好みの「手打ちそば」を食べる頃には雨もあがり、屋外の視察には好条件となった



第27回 技術士全国大会（盛岡大会）

技術士全国大会

技術士全国大会（盛岡）参加報告

第3分科会グローバル時代の技術士活動

（株）ユアテック 井上憲治（建設）

今回、機会に恵まれ技術士全国大会に初めて参加させていただき、日常業務から距離をおいた大所、高所からの講演を拝聴することが出来たので、報告することにしたい。

大会は、平成12年10月12日、盛岡市のホテルメトロポリタンに於て開催され、会長挨拶等セレモニーに引き続き、分科会へ入った。分科会は5部門に分かれ、特別分科会として「岩手山の火山活動と地域防災のあり方」、第1分科会「環境問題を中心としたエネルギー・新技術」、第2分科会「地域の農林水産業と文化」、第3分科会「グローバル時代の技術士活動」、第4分科会「国際化と技術士法」のテーマであった。

私はこのうち第3分科会に参加したので、その概要を報告する。

1. コーディネーター基調講演の要旨

長友正治（海外業務促進委員会委員長 長友機械技術事務所所長 技術士 機械）

APECエンジニア制度も近々始動の運びとなるが、従来の支援制度は、大部分が政府開発援助（ODA）依存型で、漸減傾向にあり、APECエンジニアの成立によって、個人重視の流れに沿って個人あるいは小規模ファームを主対象に運用を考えている。ODAと両々相俟って、国際技術協力技術士の業務増加に反映されることを期待している。

国際技術協力の問題点として、派遣手続きがある。ODAや民間機関の場合は、相当の機関が対応するであろうから問題ないが、独立個人会員のケースの場合が問題で、交渉・契約・保険・渡航等一切の手続きを処理する方法および対応窓

口の設定が必要不可欠となるように思われる。

技術協力が決まっている中国の西部大開発をはじめ、ASEAN諸国からも先端技術の指導に期待が持たれており、諸国が求める我国ならではの指導を念頭に努力していきたい。

2. パネラー講演要旨

・「中国への技術協力」 張旭紅（東北開発コンサルタント設計部システム技術開発グループ 課長補佐 技術士 建設）

・「韓国での醗酵技術指導」 芳賀宏（芳賀技術士事務所所長 技術士 農業）

・「海外での環境・省エネ指導」 遠藤瞭（遠藤技術士事務所所長 技術士 衛生工学）

・「APECエンジニアと技術士の海外活動」 石野三正（三正技術士事務所 技術士 機械・建設・衛生工学）

（1）張旭紅氏

中国でホットな話題は、西部大開発であり、西部地域の自然資源を開発し、産業育成を通して貧困解消を図ろうとしている。

中国が抱えている問題点は、1980年頃から対外開放に政策転換し、沿岸部を重点的に輸出主導型産業の育成を行ってきた結果、沿岸地域は豊かになったが大気汚染などの環境問題をもたらすと共に、地域間の経済格差が広がった事である。

長江と黄河の上流域である西部地域の農村部はより貧しくなり、やせた土地に原始的な手段で生計を立てる人々の活動は、土壌の流出、砂漠化、大洪水および異常渇水などの環境破壊を招いた。河北省のある県では、年間砂漠化速度200万km² > 砂漠化対策速度100万km²となり、30年後には砂漠が北京まで及ぶと予想され、首都移転も考えられる。原因は羊の放牧ともいわれる。

（6ページにつづく）

中国が抱えている問題点は、1980年頃から対外開放に政策転換した結果、地域間の経済格差が広がったこと



- 技術士全国大会 -

(5ページより)

日本のODAは、環境保護と内陸地域開発を援助の重点分野としている。これは西部の大開発の目標にも合致している。

技術協力のあり方として、直接地域住民の生活水準の向上に寄与する分野に集中することが望ましい。2年前、私は新エネルギー財団の水力調査団を、三峡ダムから120km奥の興山県まで案内した。人口19万人の興山県は水力が最大の産業となり、貧困から脱出している

現在、日本企業の8割は東部沿岸地域に集中しているが、西部地域は潜在成長力の大きい市場であり、資源と賃金のコスト面でも優位性を保つ。日本人の細やかさ、丁寧さを学び、日本企業の進出を期待したい。

(2) 芳賀宏氏・遠藤瞭氏・清水肇氏・石野三正氏

上記4講師は、自らの海外に於ける技術

指導体験を基に、経験談、活動の心掛け、課題を講演した。紙面の都合で詳細については省略する。

3. 質疑応答

質問の殆どが張さんの中国の西部大開発に集中した。山形県の土生会長も質問された。質問件数が多数あったが大別すると次のようである。

・西部大開発のための交通基盤整備はどのようにするのか？

・環境問題、排出基準等中国の厳しさはどうか？

・急速に近代化を図ると弊害が起きる。官側主導の色濃いが、この辺の手法、考え方は？

これに対し張さんは、交通基盤は昔のシルクロードを中心に考えている。環境基準等は仲々守られず、日本の方が優れている。子供時代からの遵法精神教育が必

要と考えている。近代化は沿岸地域開発例を継承しながら、日本の発展経緯を中国に伝えたいと答えた。

4. 受講の感想

グローバル時代のタイトルから、海外活動に加え国内の活動の話題も予想していたが、海外活動の講演が全てであった。しかし、海外活動は日常業務に直接係わりがないため、疎遠になりがちであったが、今回受講して最近の動向を知ることができ、有意義であった。

それにしても、中国出身の張女史は、東北開発コンサルタントという電力の関係会社の所属とあって身近かに感じていたが、中国武漢水利電力大学卒、東北大学大学院留学の学歴に加え語学力も堪能で、人間の能力の無限さを感じた。

以上

山形県技術士協会
事業活動一覧

平成12年度

平成13年2月

- 7/7 - 山形グランドホテル
- 10/3 - 長井市レインボープラン等
- 3/2 - 受験研修会: あこや会館
- 12/14 - 合同部会(顧問・役員・専門部会員): 山形グランドホテル
- 6/28 - 仙台江陽ホテル
- 10/12 - 全国大会: 盛岡
- 3/27~4/7 - 技術士第二次試験申し込み
- 8/23・24 - 東北学院大学
- 11/8 - 技術士第二次試験筆記試験合格発表
- 2/7 - 技術士第二次試験合格発表: 県内より10名合格
- 5/10~5/19 - 技術士第一次試験申し込み
- 10/8 - 東北福祉大学
- 12/21 - 第一次試験合格発表

主な活動項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月
総務部会	1 第13回総会・新入会者歓迎会				7								
	2 部会						12						
企画広報	1 部会					8		4			25		
	2 要覧の発行								15				
	3 会報の発行												上
技術部会	1 部会						22				15		
	2 会員研修会				7								
	3 現場研修会							3					
	4 技術士受験研修会												2
協会	1 合同部会(役員)		16							14	25		
	2 県との打合わせ									22			
参考	1 東北技術士協会定時総会			28						26	27	28	
	2 技術士全国大会							12					
	・技術士第二次試験					8/23・24			8			7	
	・技術士第一次試験							8		21			

技術士協会トピックス

今回は、技術士 = 日本技術士会員
仮称技術士センターを設立し、セミナー業務を行う



みなさんのご意見のお便りお待ちしております

去る2月23日の全体役員会で提案された事ですが、全国的な趨勢との話もあり、3月5日の全国支部長会議に諮られるとの見通しです。

1. 東北技術士協会と日本技術士東北支部との分離
平成14年度までは2つの事務局を置きます。
東北支部の事務局員は中央から赴任します。これに伴い事務局は、別の建物に移転します。その後15年度からは「東北支部」として一本になると云う事です。
2. 技術士協会と云う名称は一切使わず「山形県技術士会」となります。
3. 会員は、今までは協会の会員であっても「日本技術士会」の会員でない人もおりましたが、今回は、技術士 = 日本技術士(東北支部)会員 = 山形県技術士会員

ということになります。

4. 支部に対しては、8,000円/人の交付金がありますが、従来は1,800円/人の試験事務費があったのでそれが加算されます。
5. CPD業務が我々技術士の必修事項となりますからこれを積極的に実施します。
6. 平成15年度の協会の総会で東北技術士協会の解散を宣言します。
7. 技術士センター(仮称)を設立し、セミナー業務のみを行います。

以上が凡その項目ですが、これから詰めるのは会員の「会費」と「交付金」、それに「賛助会員費」があります。

詳細は本協会の役員会で議論することになりますが、皆さんもご意見があればファックスか郵送で事務局が近くの役員にお便り頂ければ幸いです。

技術士紹介 - ここでがんばっています -

豊島良一

私が勤めている(株)成和技術は昭和46年創業で今年の1月23日でちょうど30周年を迎えました。業務内容は一般測量、GPSを利用したトータル的な応用測量、建設・補償コンサルタント業務、企画開発業務、GISなどの情報システムの業務が主な仕事といったところでしょうか。社員数は41名で私が入社した当時(昭和61年)から比較すると倍以上の人数になりました。私は主に建設コンサルタント業務をかつかう技術第一課に所属しています。(入社15年目)

わが成和技術も会社としての成熟期？を迎え業務の処理能力は年々向上している反面マイナス要因もみうけられ、今後の会社としての方向性を見出す時期にきています。特に言うまでもなく、公共事業の削

減や建設分野そのものが悪者として誌上で取り上げられる時代になり、いかに市民の立場に立ち多様なニーズにこたえていけるかが生き残りの条件となりました。(言葉でいうと非常に簡単なのですが)私も会社の一員、社会の一員ということ肝にめいじながら、先輩技術士の皆さんに負けないよう今後も努力して参りたいと思います。

最後に、今年度から新参者である私が県技術士会最北地区理事という重大な役柄をいただきまして何もわからず活動して参りましたが、最上地区からぜひとも技術士が誕生されることを願ってやまない今日この頃です。

豊島良一 (H10合格 建設部門)



豊島さんの職場風景

豊かな地域社会の創造に技術士の活用を

山形県技術士協会

山形市松波四丁目12-3
（株）田村測量設計事務所内

電話 023 (642) 6644
FAX 023 (642) 6654

協会の趣旨

山形県技術士協会は、会員の品位と資質を向上し、高度化、総合化等が進展する近時の科学技術に関する業務を行う者として、名実ともに社会的地位を保つよう、会員相互の連絡・協力・研修等を通して、技術者の指導・育成、技術士業務の普及・啓発を行うことを目的としています。

協会の事業活動

- (1) 技術士要覧、会員技術士名簿の発行及び技術士受験研修会、講演会などを開催し、技術士制度並びに技術士資格の活用・普及・啓発、その他の事業を行っています。
- (2) 技術士の社会的地位向上のための活動及び各種情報の提供を行っています。
- (3) 現地見学会や会員研修等を通して、会員相互の技術の向上、啓発、研修に関する事業を行っています。
- (4) 会員、東北技術士協会並びに社団法人日本技術士会との連絡と協力に関する事業を行っています。
- (5) 各種講習会、セミナー等への講師派遣及び各種分野の技術指導に関する事業を行っています。

編集後記



ドン・キホーテが巨人だと思いこみ体当たりで突進したというスペインのラ・マンチャという村にある風車と朽ちかけた城塞 撮影：J.A. , 2001.2.17

このごろやっと田圃の土が待ちかねたように少し雪を溶かして顔を出してきました。この会報が皆様のお手元に届く頃には、春を告げるふきのとうが芽を吹いていることでしょう。

協会の会員皆様へ、どのようなサービスを提供することが協会の役目であるかは、常に理事会・役員会で話題になることでもあります。

このたび、協会の会則改定に伴い、各部会活動が強化されたこともあり、まず、企画広報部会から、かねてから話題となっておりました会報を発行する運びとなりました。ここに、記念すべき3紀元の新年に創刊号を発行できましたことは、ひとえに皆様方会員のご支援があったからであります。この紙面を借りて感謝を申し上げます。

この会報は、ごらんの通りまだまだ未熟であります。皆様にはご不満が多々あるかと思えます。この会報が今後、会員の皆様にとって有意義で、待ち遠しいものになることを願ってやみません。

そのためには、会員皆様より、記事のアイデア、企画、提供してほしい情報など、どしどし要望していただければ幸いに存じます。

それから、やはり、ロゴマークがあるとクールな感じができますので、併せて当協会のロゴマークも募集したいと思えます。

会報は、今のところ年2回発行を目標にしています。原稿執筆をお願いすることがありますがそのときはご協力のほど宜しくお願いします。

J. Autumn